

論文の内容の要旨

氏名：三 塚 裕 介

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：肝切除後のドレーン至適管理基準の検証

背景： 2006年7月から2009年8月に肝切除を施行した316例を対象に、腹腔ドレーン至適管理基準“3 x 3 rule”（術後3日目の腹腔内ドレーンの排液中ビリルビン値が3.0 mg/dl以下かつ塗抹培養陰性のドレーンは抜去する）を作成した。この基準を順守することで、過去に行われた87%（275/316）の症例を対象としたデータにおいて有害事象なく安全に管理できると予測した。

目的： 腹腔ドレーンの至適管理基準の正当性を異時性集団で検証する。

方法： 2011年1月から2012年6月に肝切除術を施行した274例（腹腔内留置ドレーン総数493本）を対象とした。術後1,3,5,7日にドレーンの塗抹培養検査と排液ビリルビン値の測定を行い、3 x 3 ruleに従いドレーンを管理した。この基準における総感染率、合併症率、術後在院日数、医療コストを検討した。

結果： 274例を対象としたValidation set（2011～2012年）における3 x 3 ruleの検証では、Test set（2006～2009年）と比較して総感染率は[4例（1.5%）vs. 58（18.4%）， $p<0.01$]、合併症率は[16例（5.8%）vs. 54（17.1%）， $p<0.01$]と有意に減少し、術後在院日数は[11日（6-73）vs. 16（9-59）， $p=0.04$]へと有意に短縮された。医療コストにおいても有意に減少した[1,453,191円（96,808-6,859,378）vs. 1,847,356（466,760-9,498,264）， $p<0.01$]。また再手術が必要となった5例は、腹腔ドレーンによる情報で早期に再手術を施行し、術後は明らかな合併症なく経過した。

結語 肝切除後の腹腔ドレーン至適管理基準“3 x 3 rule”の正当性は異時性集団においても再現された。